

最上の子どもたちのために 未来へ



- ◆ 最上教育事務所指導課通信
- ◆ 令和7年 8月6日
- ◆ 最上教育事務所指導課
- ◆ 第5号

幼保小中接続推進のための研修 子どもの育ちと学びをつなぐ研修会 令和7年6月17日(火)

山形県では、幼児教育の質向上及び小学校教育への円滑な接続の一体的な推進により、確かな学力の育成を目指しています。最上地区では、今年度も山形大学 野口 徹 教授をお招きし、幼保小中の「育ちと学びの連携」に向けた研修会を行いました。

講義題 「学びをつなぐ架け橋プログラムの推進と幼保小中の連携」

- ・目標は「**資質・能力の向上**」。そのために、子ども・学校・地域の実態を「**資質・能力の面から**」適切に把握することが重要。
- ・学校は、**幼児期からの学びと育ちを生かし**、わかりやすく、学びやすい環境・活動を意図的に設定することが大事。子どもが自ら考え、判断し、行動することを繰り返し、自立に向かうことができるように。
- ・架け橋プログラムは、5歳児から小学校1年生の資質・能力をつなぐ一体的なプログラムである。**幼保小中の先生方が一緒に**意見交換や合同研究を行い、その地域で**育ってほしい子どもの姿を共有**することが大事。



参加者の感想

- ・保育園、幼稚園の先生方の子どもたちを見とる感覚がとても新鮮でした。小学校も必要な見方だったと思います。
- ・幼稚園・保育園の当たり前の姿が、小学校ではまだまだ浸透していないことを実際に感じてすごくもったいなかったと思いました。自分から幼・保へ参観させていただく機会を作りたいと思います。
- ・教員と保育士がまず話す、子どもの面白さに触れること自体がすごく良い事だと感じています。子どもが好きな異なる立場の方と話ができ楽しかったです。

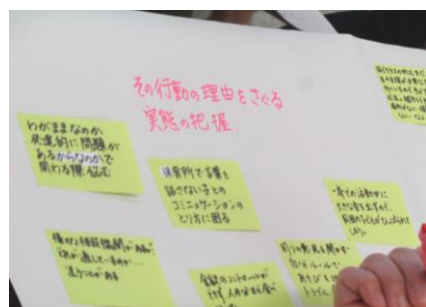
第1回特別支援教育研修会兼特別支援教育コーディネーター研修会 令和7年7月8日(火)

講師に、県立新庄養護学校 古澤 智 校長先生をお招きし開催しました。講義の前に先生方の支援上の悩みや迷いを付箋に書き出し、課題を整理しました。先生方の悩みは多岐に渡っており、日々試行錯誤しながら子どもたちに向き合っていることがうかがえました。古澤校長先生からは、先生方の声もふまえて「知的障がい教育の基本と関係機関との連携」について御講義いただきました。



心がけたいこと (講義資料より一部抜粋)

- (1) 【実態把握】興味関心、得意不得意、人間関係、家庭生活など
- (2) 【関係性の構築】**言葉の真意**を見抜けるように
- (3) 【関係者との連携】同じやり方、方法、指導支援を大切に
- (4) 【わかりやすさを大切に】
「わかるだろう」はわからない。**一人のための支援が全員に使える支援に**
- (5) 【PDCAの活用】児童生徒の**伸び**を評価する
- (6) 【メモや記録に残す】担当者が変わってリセットしないように



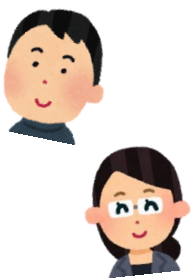
第1回最上地区中学校生徒会サミット 令和7年7月7日(金)

令和7年度第1回最上地区中学校生徒会サミットがオンライン（Zoom）で開催されました。最上地区各中学校の生徒会活動の実践紹介・情報交換を通して、自治的な組織づくり、主体的な学校づくりを目指します。生徒会サミットのテーマは、「絆を深め、誰もが行きたくなる楽しい学校づくり」です。自校の自主的・主体的な取組のより一層の充実に向けて、活発な意見交流が行われました。サミットの中で紹介された取組の一部と参加者の感想を紹介します。



○各学校の取組紹介(一部)

・新庄中学校…みんなの教室 ・金山中学校…生徒集会レク活動 ・大蔵中学校…大中タイム
※詳細については、参加された各学校生徒会役員等へお聞きください。



【生徒】

他校の生徒同士の絆を深める活動を詳しく知ることができ、自分たちの活動について改めて見つめ直すことができました。新生徒会への引き継ぎに見通しが持てたのでしっかりと次に伝えていきたいと思います。

【先生】

参加した生徒は、新たな気づきがあったり、自分たちの活動を練り直そうとするきっかけになったりしたようです。また、他校の実践紹介を聞いて話し方や考え方などのリーダーに必要な力や資質を再確認できたようです。

M-T E P A：若手育成型

日時	学校名	氏名	支援の内容	主体的に学ぶ研修者の様子
7月18日	日新小学校	田中李奈 教諭 八鍬芽依 教諭 姉崎叶恵 教諭	授業者と学習者の視点から日々の授業を振り返り、「児童が夢中になり、学ぶ楽しさに気づく授業」に向けた改善策を考える。	児童が主体的に学ぶ具体的な姿を、対話を通してイメージし、教師の出のタイミングや指導の在り方について考えている様子が見られました。
7月18日	日新小学校	井上航汰 教諭 菅野 星 教諭	小学校理科の授業改善のポイントである児童にとって魅力ある課題設定と「問題解決の過程」について共通理解を図った。	「児童が自分事として取り組むことができる課題設定」について深く考え、日常生活や身近な現象と授業内容を関連させた導入の方法について考える姿が見られました。
7月18日	日新小学校	高橋音々 教諭 井上拓郎 助教諭 柿崎裕太 教諭	特別支援学級における自立活動や教科（算数科）の指導の実際と、児童個々に応じた授業実践の日常化に向けて	1時間の授業の中で見られた児童の様子を基に、適切な支援の在り方について話し合いながら、日常的に取り組むことができる手立てについて考える姿が見られました。
8月5日	大堀小学校	佐藤奈緒子 教諭	算数科における数学的な見方・考え方を働かせた単元構成と学習評価について	学習指導要領解説に立ち返りながら、単元の目標や見方・考え方を確かめ、全体・協働・個別のバランスを考えた単元づくりに挑戦する姿が見られました。

※M-T E P Aについては随時申し込みいただけます。支援内容については相談ください。

「Plant」あるある Q&A③



Q: 学校管理職が自校の受講者の振り返りを確認するにはどうすればよい?

A: 学校管理職 ID でログインし、「研修管理」から研修を検索（研修日に注意）し、該当する研修名をクリックします。研修概要のページが表示されたら、下部の課題・アンケート一覧の右側にある「回答 CSV」をクリックすることで、回答 CSV のダウンロードが始まります。受講者が振り返りの入力を済ませていれば、ダウンロードしたデータにて自校の受講者の振り返りを確認することができます。